

支給対象者修了報告書(短期派遣学生用)

標記について、下記のとおり報告します。

記

○基本情報

短期派遣学生氏名	熊野貴文	在籍大学等名	京都大学
派遣先大学等名	西安交通大学		派遣先の大学等での 在籍課程・身分
奨学金支給期間	平成 26 年 9 月 ~ 平成 26 年 9 月	派遣先国・地域名	中国

○報告内容

学習成果について(自由記述)	
中国文化と歴史についての理解が進んだ。授業は、中国語の授業が中心と思っていたが、実際は中国語というよりは、中国についての授業がほとんどだった。当初思っていた授業とは異なっていたが、陝西省や西安のことについて初めて知ることは多かった。また、毎日半日は授業で、もう半日は西安の史跡や博物館を訪問する予定が組まれていて、生で中国の文化や歴史を体感できた。	
海外での経験について(自由記述)	
海外経験はこれまでの数回あったが、2週間も滞在したのは初めてであった。班員の中では、この滞在中にけがなどの問題が発生してしまったが、私自身は特に問題を起こすことはなかった。無事安全に中国でのプログラムを終了することができた。今回はこれまでの海外旅行とは大きく異なり、現地の人々と会話する機会が非常に多かった。この経験は非常に貴重だったし、中国人の人柄に触れることができた。	
派遣プログラムの内容について(自由記述)	
派遣プログラムの内容については、おおむね満足している。中国や西安の歴史や文化を理解する上で、十分な施設や場所を訪れるようにスケジュールが組まれており、非常に充実したプログラムであった。ただし、授業の方でもう少し中国語に重点を置いた授業が多くて良いと感じた。	
今後の進路への影響について(自由記述)	
進路については、現在は修士課程の1年生に在籍しているが、博士課程にできれば進学したいと考えている。これから研究の道を志すのであれば、様々な場面で外国語が必要になる。わたしはいつか中国をフィールドにして調査研究をしたいと考えている。そのためにはまだまだ中国語を学習しなくてはならないが、中国語を学習する意欲は、このサマープログラムで大きく増進した。今後は自主的に中国語を学習して語学力の向上を目指す。	
その他(自由記述)	
今回のプログラムは非常に充実していた。また、西安、あるいは他の中国の都市を訪れてみたいという思いが強くなった。	

○学生署名欄:

※ 本報告書及び短期派遣状況調査票(短期派遣学生用)(様式H-3)は、在籍大学等が指定する期日までに必ず提出すること。

※ご記入いただいた情報は、日本学生支援機構または日本国政府が行う留学生支援のために必要な業務に利用されます。また、行政機関及び公益法人等から奨学金の重複受給の防止等のために照会があった場合は、適正な範囲内においてこの情報が必要に応じて提供されます。